資料３

長崎県内の子宮頸がん検診の実績について

2026.2.16

長崎県保健医療対策協議会
がん対策部会子宮がん委員会

●実績データについて

厚生労働省（令和7年3月公表）
「令和5年度　地域保健・健康増進事業報告」より集計

プロセス指標	参照年度（最新）
受診率	令和5年度
要精検率 精検受診率 陽性反応適中度 がん発見率	令和4年度

※「地域保健・健康増進事業報告」は、地域（市区町村）で実施された事業報告のため、
職域で実施された検診（人間ドック含む）は含まない。

※集計年齢は、公表値に準じて「20～69歳」とする。
ただし、長崎県内では70歳以上の受診者数が多いため、一部参照データとして示す。

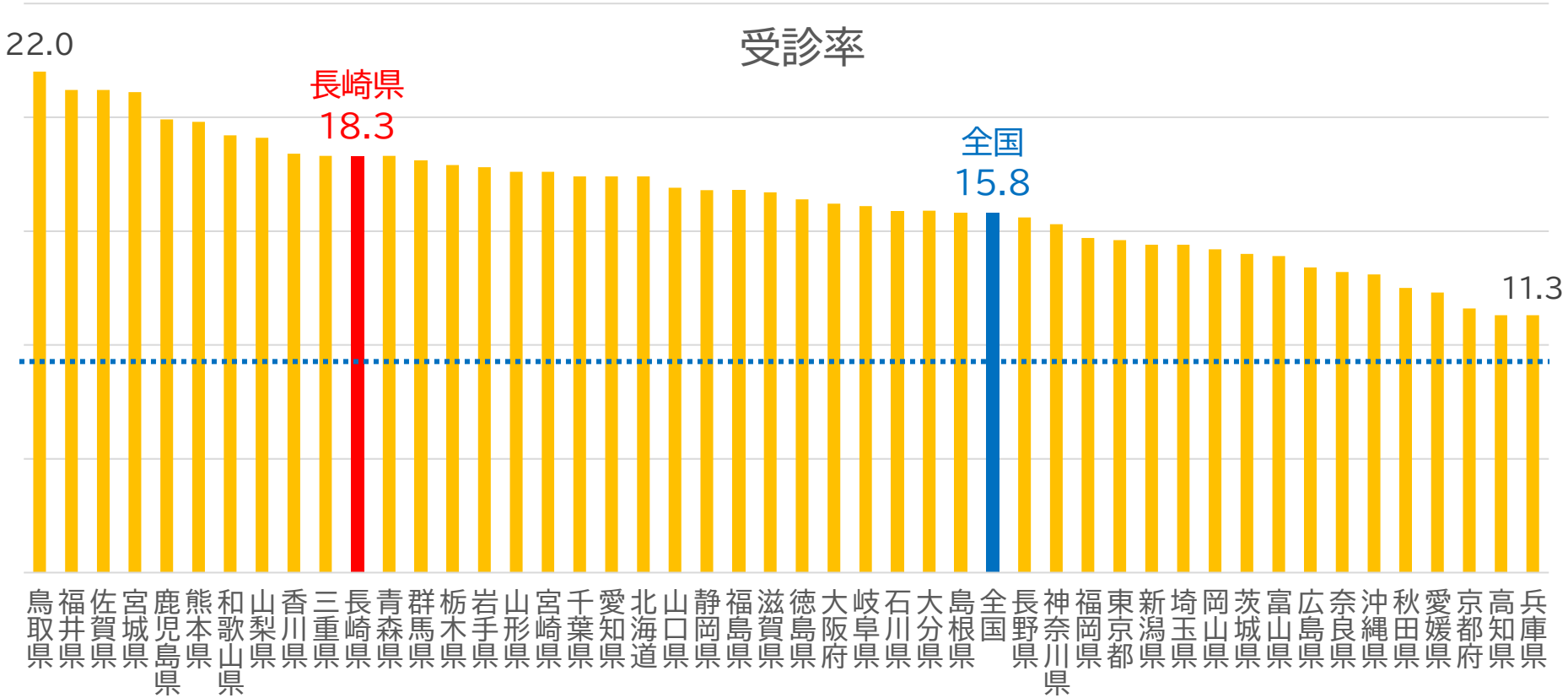
◆地域保健・健康増進事業報告の流れ

翌年度（6月末頃）	⇒	⇒	⇒	翌々年度（6月末頃）
検診実績報告		（精検結果の把握）		精検結果報告

1.子宮頸がん検診受診率の状況

1）全国順位

地域保健・健康増進事業報告（厚労省）公表値によると、
令和5年度（長崎県）は18.3%で、全国平均15.8%を上回り、全国11位。



2

2）年次推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
全国	32.0	23.3	16.4	16.3	16.0	15.7	15.2	15.4	15.8	15.8
長崎	41.4	33.7	18.3	19.2	18.4	18.7	18.1	17.6	18.0	18.3

算出年齢：20～69歳（～H24まで「20歳以上」）

対象者：「就業者数」を除外しない

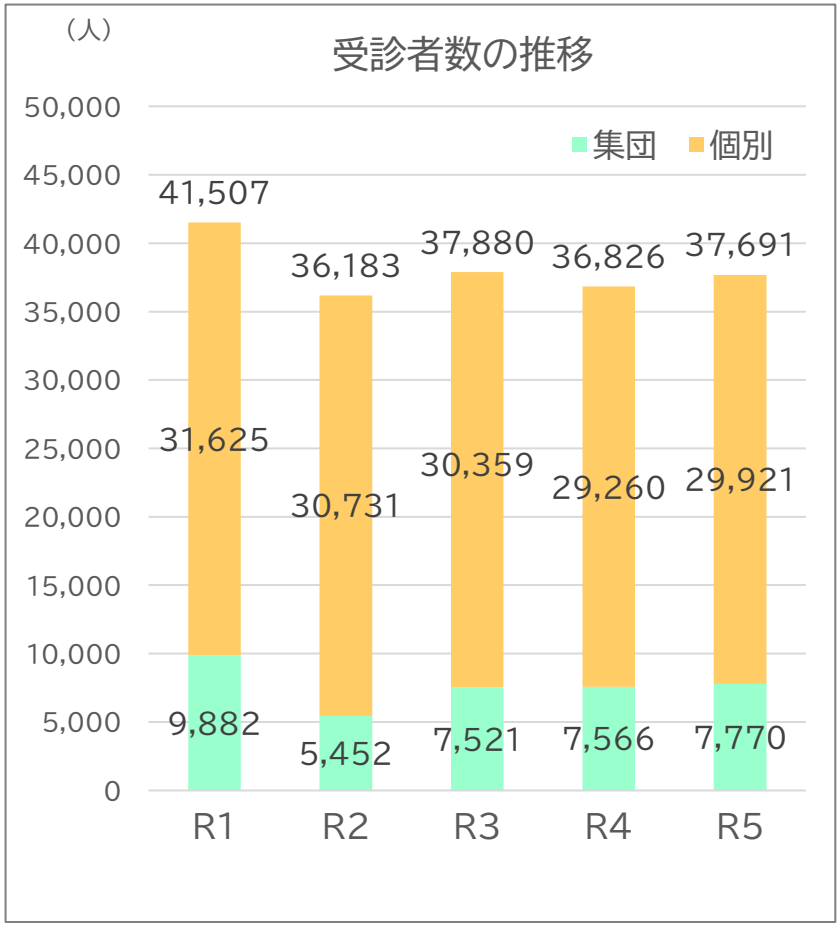
※算出年齢、対象者の計上方法が年度によって変更されているので、 H27年度以前の経年的な比較はできない。

※受診率が比較可能なH28以降で比較すると、全国、長崎ともにR2・R3で減少していたが、R4以降は増加してきている。

2. 子宮頸がん検診受診者数と受診率 （20～69歳）

1）受診者数の推移

受診者数は、年々減少傾向。
R2年度に大きく減少し、R3年度以降は増減を繰り返している。



(20-69歳)	R1	R2	R3	R4	R5
集団	9,882	5,452	7,521	7,566	7,770
個別	31,625	30,731	30,359	29,260	29,921
合計	41,507	36,183	37,880	36,826	37,691

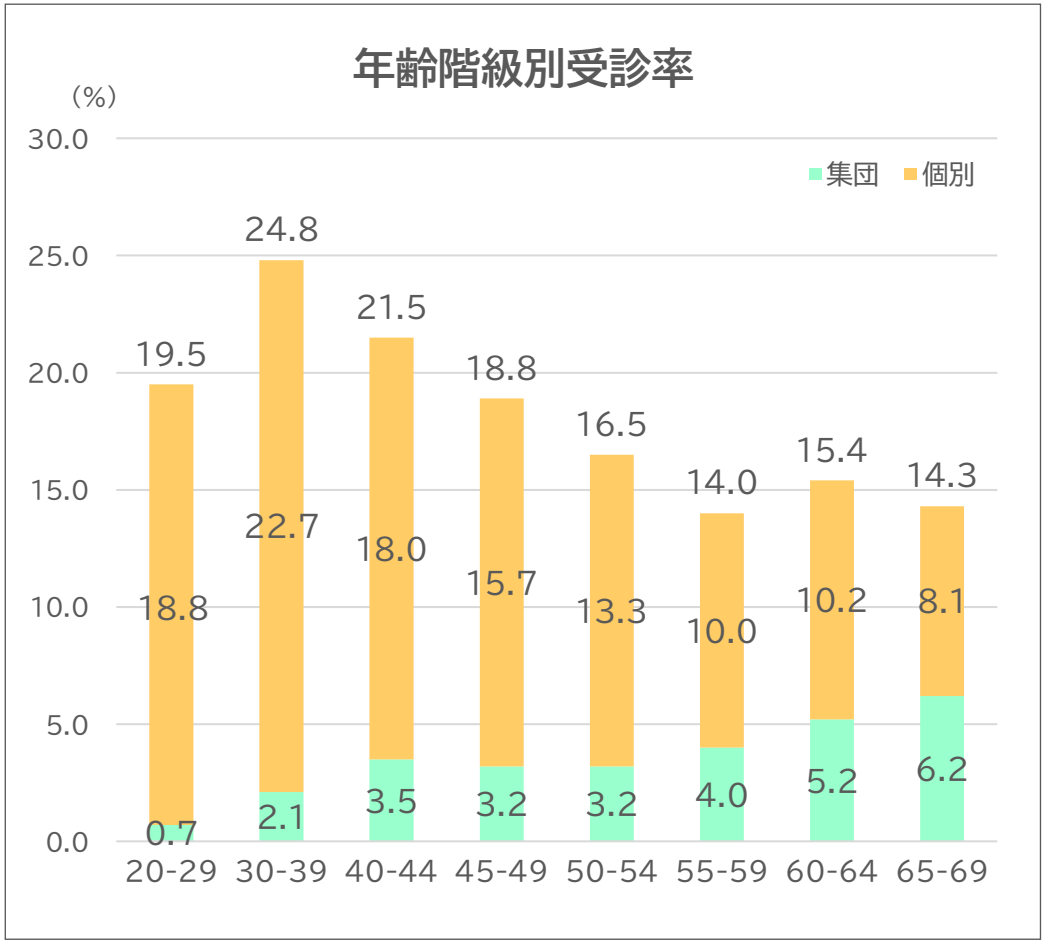
【参考】

（全年齢）	R1	R2	R3	R4	R5
集団	13,756	7,774	10,851	10,908	11,505
個別	35,361	34,224	34,151	33,092	33,966
合計	49,117	41,998	45,002	44,000	45,471

地域保健・健康増進報告（厚労省）

2）令和5年度年齢階級別受診率

全体の受診率は、30-39歳が最も高く、その後は年齢階級が高くなるにつれ、低くなる傾向が見られた。 年齢階級が上がるにつれ、集団検診の割合が増加し、個別検診では低くなる傾向がみられた。



年齢階級	区分	対象者数	受診者数	受診率
20-29	集団	49,451	178	0.7
	個別		4,823	18.8
	計		5,001	19.5
30-39	集団	59,525	697	2.1
	個別		7,041	22.7
	計		7,738	24.8
40-44	集団	36,946	759	3.5
	個別		3,679	18.0
	計		4,438	21.5
45-49	集団	41,761	806	3.2
	個別		3,667	15.7
	計		4,473	18.8
50-54	集団	44,415	865	3.2
	個別		3,350	13.3
	計		4,215	16.5
55-59	集団	42,784	1,082	4.0
	個別		2,471	10.0
	計		3,553	14.0
60-64	集団	45,296	1,437	5.2
	個別		2,600	10.2
	計		4,037	15.4
65-69	集団	49,432	1,946	6.2
	個別		2,290	8.1
	計		4,236	14.3

地域保健・健康増進報告（厚労省）

▶3. 令和4年度子宮頸がん検診成績　（20～69歳）

1）令和4年度子宮頸がん検診成績

	区分	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診 あり C	精検受診率 C/B	精検受診 なし D	精検未受診率 D/B	精検受診 未把握 E	精検未把握率 E/B	精検結果別人数 異常なし F	がん G	IA期がん H	AIS I	CIN3 J	CIN2 K	CIN2 CIN3～ L	CIN1 M	がん疑い及び未確定 N	がん以外の疾患 O	陽性反応適中度 (G+I+J)/B	がん発見率 (G+I+J)/A	IA期がん割合 H/G
長崎県	集団	7,566	118	1.6	103	87.3	4	3.4	11	9.3	23	1	0	2	11	14	2	39	6	5	11.86	0.19	0.0
	個別	29,440	1,030	3.5	842	81.7	56	5.4	132	12.8	302	20	3	1	46	78	13	270	41	71	6.50	0.23	15.0
	合計	37,006	1,148	3.1	945	82.3	60	5.2	143	12.5	325	21	3	3	57	92	15	309	47	76	7.06	0.22	14.3

【参考】

70歳以上	集団	3,342	8	0.2	8	100.0	0	0.0	0	0.0	2	0	0	0	1	1	0	2	2	0	12.50	0.03	0.0
	個別	3,851	49	1.3	39	79.6	5	10.2	5	10.2	14	5	0	0	0	2	0	8	7	3	10.20	0.13	0.0
	合計	7,193	57	0.8	47	82.5	5	8.8	5	8.8	16	5	0	0	1	3	0	10	9	3	10.53	0.08	0.0

※陽性反応適中度・がん発見率は、
CIN3以上（頸がん・AIS・CIN3）の合計で算定

地域保健・健康増進報告（厚労省）

※初回受診者：過去3年間（R1・R2・R3）に
受診歴のない者

2）令和4年度子宮頸がん検診成績（20～69歳、初回受診者）（再掲）

	区分	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診 あり C	精検受診率 C/B	精検受診 なし D	精検未受診率 D/B	未把握 E	精検未把握率 E/B	精検結果別人数 異常なし F	がん G	IA期がん H	AIS I	CIN3 J	CIN2 K	CIN3～CIN2 L	CIN1 M	がん疑い及び未確定 N	がん以外の疾患 O	陽性反応適中度 (G+I+J)/B	がん発見率 (G+I+J)/A	IA期がん割合 H/G
長崎県	集団	2,447	67	2.7	59	88.1	3	4.5	5	7.5	12	1	0	1	10	6	1	22	3	3	17.91	0.49	0.0
	個別	13,701	614	4.5	491	80.0	35	5.7	88	14.3	165	16	1	1	36	47	9	147	31	39	8.63	0.39	6.3
	合計	16,148	681	4.2	550	80.8	38	5.6	93	13.7	177	17	1	2	46	53	10	169	34	42	9.54	0.40	5.9

【参考】

70歳以上	集団	539	5	0.9	5	100.0	0	0.0	0	0.0	1	0	0	0	1	1	0	0	2	0	20.00	0.19	0.0
	個別	1,408	31	2.2	24	77.4	3	9.7	4	12.9	7	4	0	0	0	2	0	5	4	2	12.90	0.28	0.0
	合計	1,947	36	1.8	29	80.6	3	8.3	4	11.1	8	4	0	0	1	3	0	5	6	2	13.89	0.26	0.0

**※陽性反応適中度・がん発見率は、
CIN3以上（頸がん・AIS・CIN3）の合計で算定**

地域保健・健康増進報告（厚労省）

3）令和4年度子宮頸がん検診成績（年齢階級別）

年齢階級	受診者数	精検受診								精検結果別人数										陽性反応適中度	がん発見率	IA期がん割合
		要精検者数	要精検率	あり	精検受診率	なし	精検未受診率	未把握	精検未把握率	異常なし	がん	IA期がん	AIS	CIN3	CIN2	CIN2 CIN3〜	CIN1	がん疑い及び未確定	がん以外の疾患			
	A	B	B/A	C	C/B	D	D/B	E	E/B	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	(G+I+J)/B	(G+I+J)/A	H/G
20〜29歳	5,065	342	6.8	269	78.7	10	2.9	63	18.4	89	2	1	0	9	28	5	105	13	18	3.22	0.22	50.0
30〜39歳	8,078	316	3.9	254	80.4	24	7.6	38	12.0	76	2	0	3	18	31	3	89	14	18	7.28	0.28	0.0
40〜44歳	4,297	129	3.0	113	87.6	6	4.7	10	7.8	32	5	1	0	8	15	3	38	6	6	10.08	0.30	20.0
45〜49歳	4,252	122	2.9	103	84.4	8	6.6	11	9.0	41	1	0	0	7	9	1	34	5	5	6.56	0.19	0.0
50〜54歳	3,955	118	3.0	105	89.0	5	4.2	8	6.8	42	4	1	0	8	5	2	23	5	16	10.17	0.30	25.0
55〜59歳	3,323	49	1.5	36	73.5	4	8.2	9	18.4	13	3	0	0	2	1	1	8	1	7	10.20	0.15	0.0
60〜64歳	3,900	32	0.8	28	87.5	2	6.3	2	6.3	12	2	0	0	3	2	0	5	2	2	15.63	0.13	0.0
65〜69歳	4,136	40	1.0	37	92.5	1	2.5	2	5.0	20	2	0	0	2	1	0	7	1	4	10.00	0.10	0.0
合計	37,006	1,148	3.1	945	82.3	60	5.2	143	12.5	325	21	3	3	57	92	15	309	47	76	7.06	0.22	14.3

【参考】

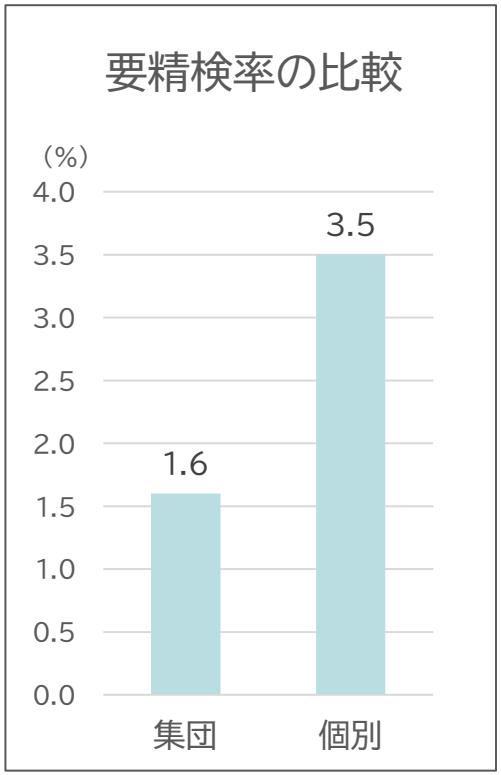
70歳以上	7,193	57	0.8	47	82.5	5	8.8	5	8.8	16	5	0	0	1	3	0	10	9	3	10.53	0.08	0.0

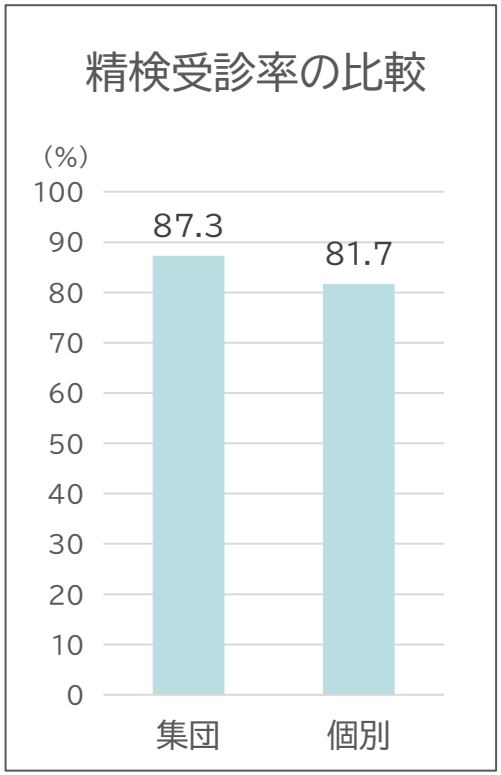
地域保健・健康増進報告（厚労省）　※陽性反応適中度・がん発見率は、CIN3以上（頸がん・AIS・CIN3）の合計で算定

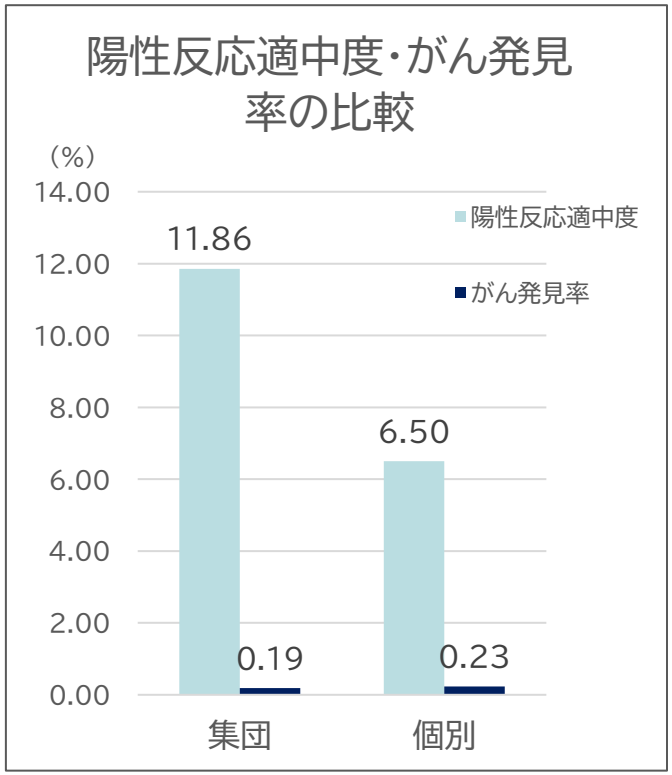
4）プロセス指標の集団と個別の比較（20～69歳）

- 要精検率は、集団より個別が高く、精検受診率は個別より集団が高かった。
  陽性反応適中度は個別より集団が高く、がん発見率は集団より個別が高かった。

※陽性反応適中度・がん発見率は、
CIN3以上（頸がん・AIS・CIN3）の合計で算定







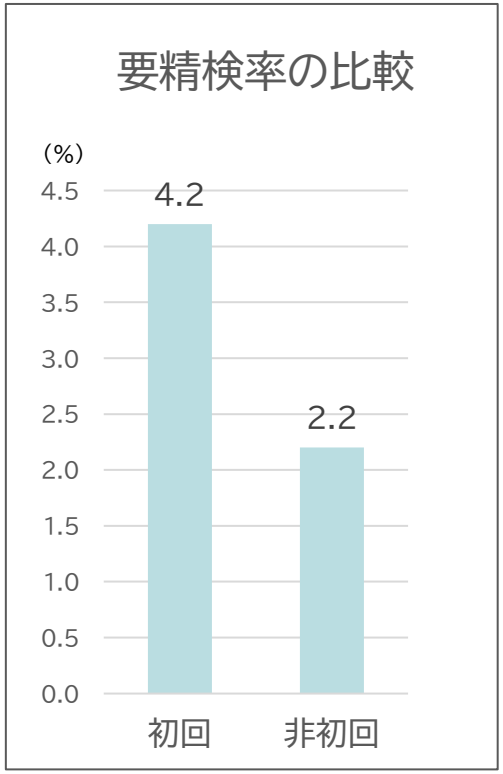
地域保健・健康増進報告（厚労省）

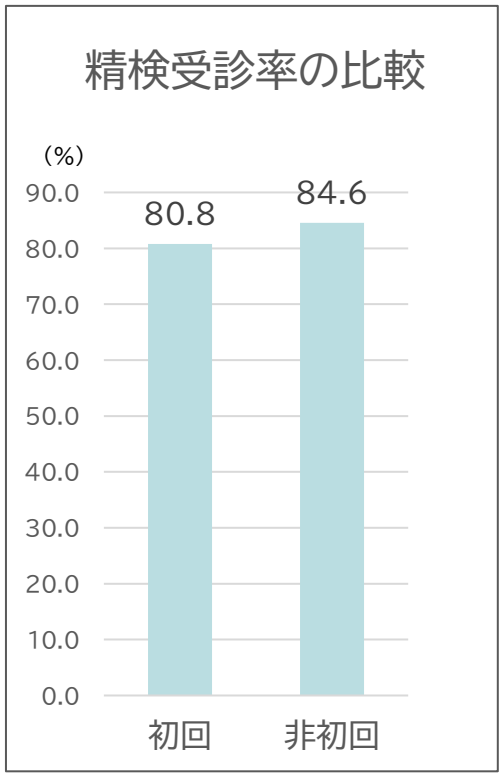
※初回受診者：過去3年間（R1・R2・R3）に受診歴のない者

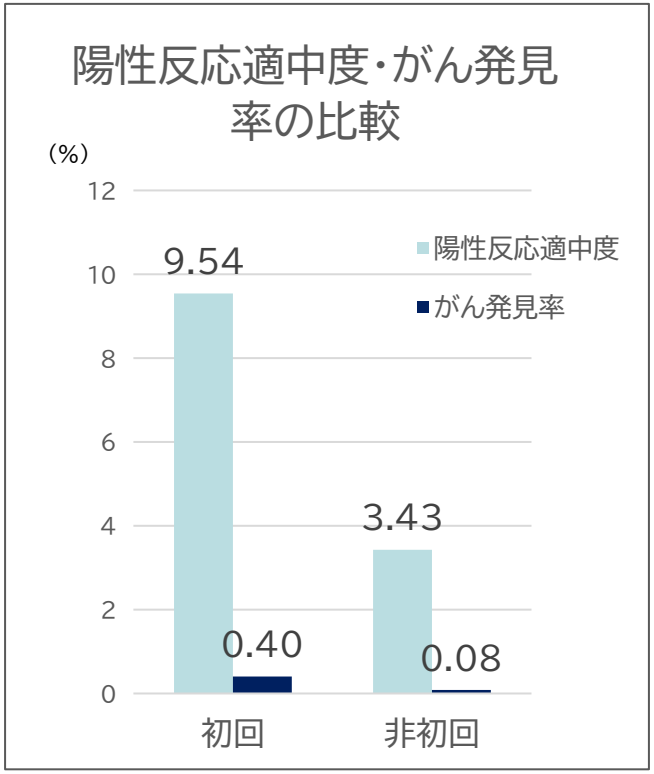
5）プロセス指標の受診歴別の比較（20～69歳）

- 要精検率は非初回より初回が高く、精検受診率は初回より非初回がやや高かった。
  陽性反応適中度、がん発見率は、非初回よりも初回が高かった。

※陽性反応適中度・がん発見率は、
CIN3以上（頸がん・AIS・CIN3）の合計で算定



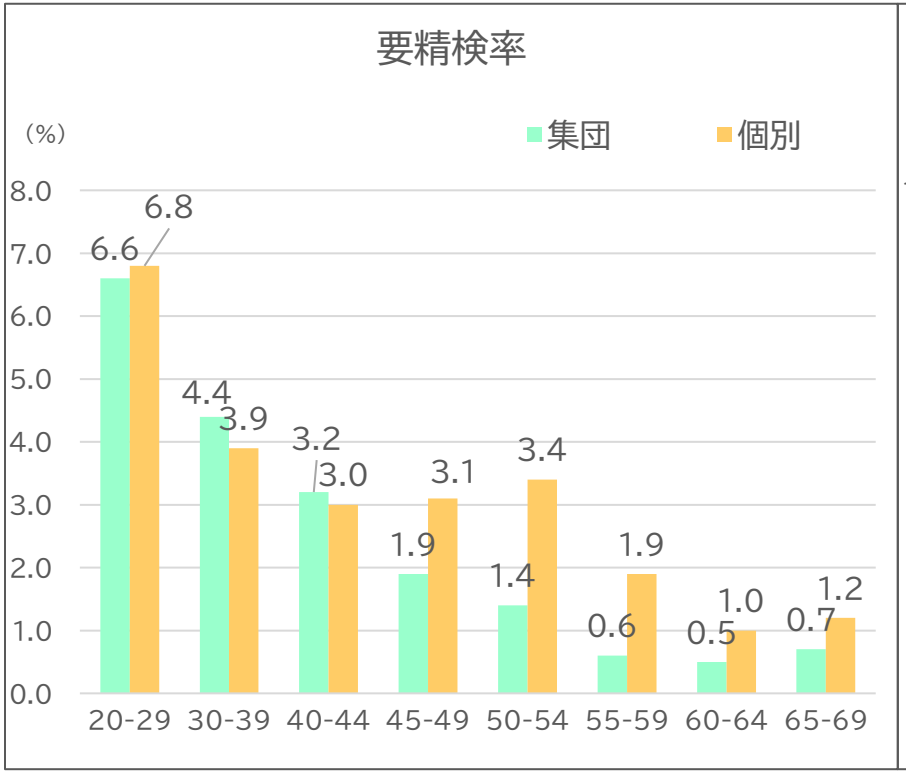


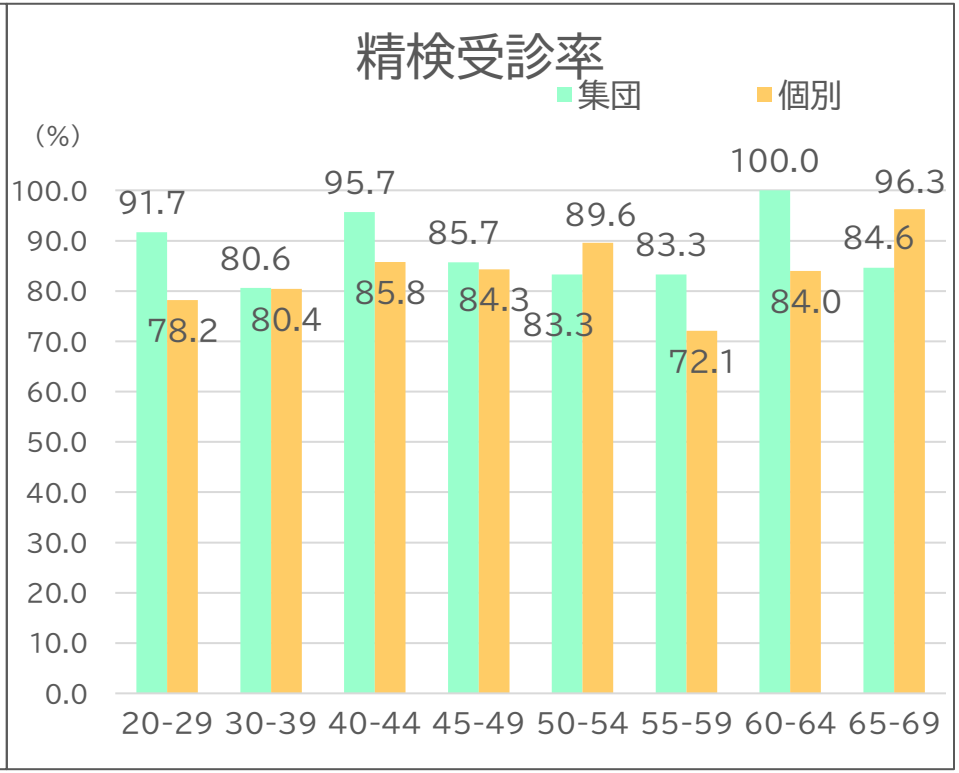


地域保健・健康増進報告（厚労省）

6）年齢階級別 の比較　　（要精検率・精検受診率）

要精検率は、集団・個別ともに、年齢階級が上昇するにつれて低くなる傾向がみられた。
精検受診率は、ばらつきが大きかった。

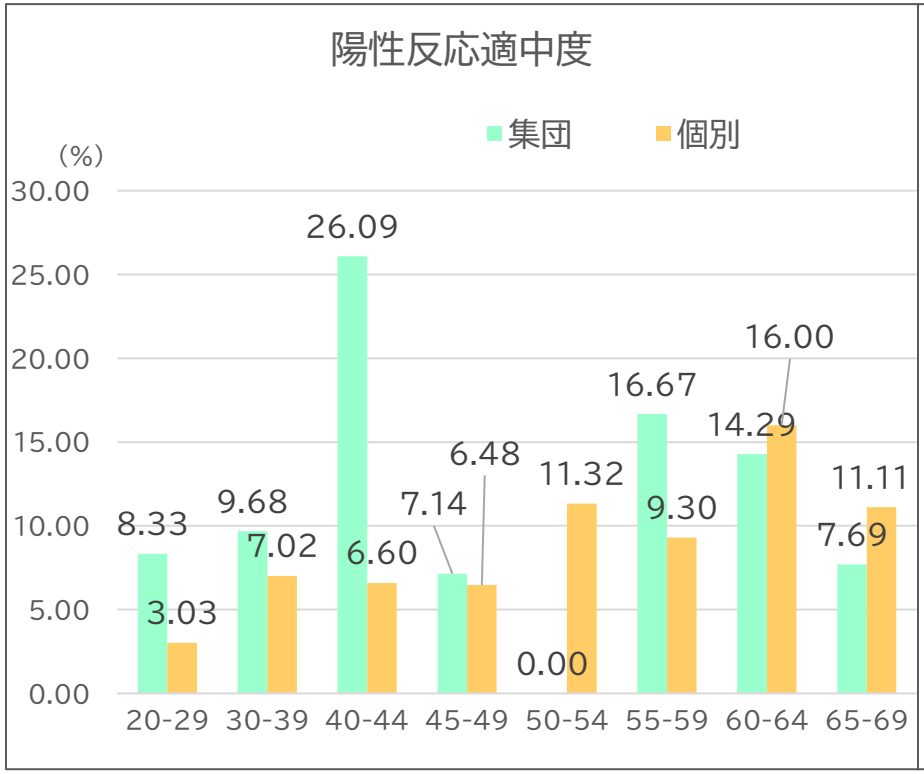


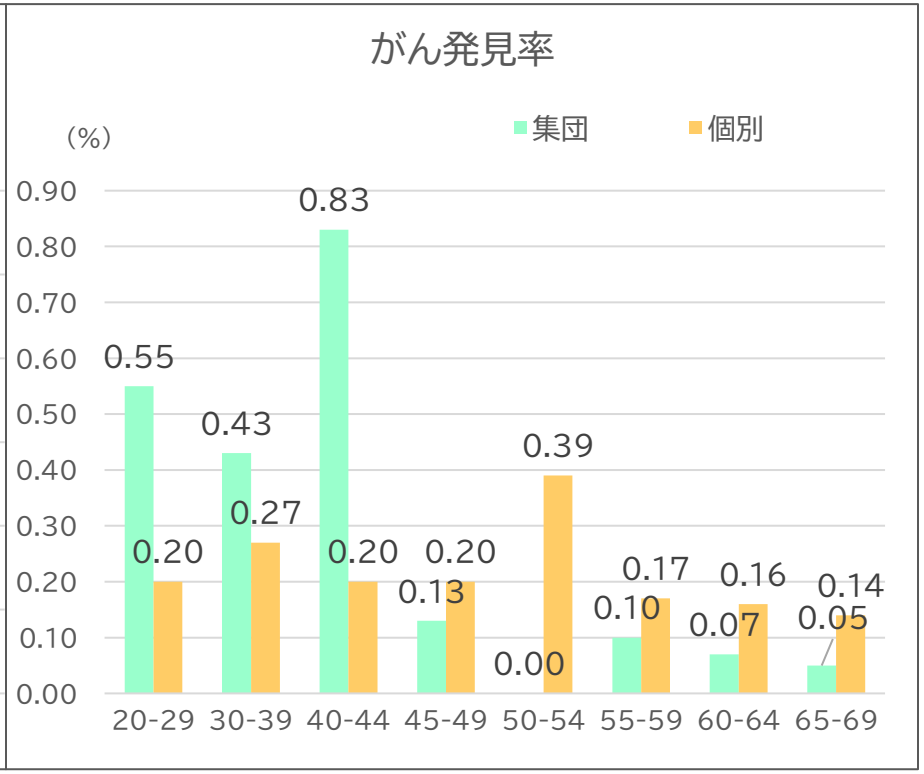


地域保健・健康増進報告（厚労省）

（陽性反応適中度・がん発見率）

- 陽性反応適中度とがん発見率は、ばらつきが大きかった。





※陽性反応適中度・がん発見率は、CIN3以上（頸がん・AIS・CIN3）の合計で算定

地域保健・健康増進報告（厚労省）

4.国の示す事業評価指標値

平成20年に設定
令和5年6月改訂により新基準値へ変更

	胃がん（エックス線）		大腸がん	肺がん（1年間隔）		乳がん（2年間隔）		子宮頸がん		
	2年間隔	1年間隔			検診以外の受診を考慮		連続受診を考慮			
対象年齢	50-69歳		40-69歳	40-69歳		40-69歳		20-69歳	20-39歳	40-69歳
算出に用いた感度*	60%以上		60%以上	50%以上		40歳代：60%以上 50歳代：70%以上 60歳以上：80%以上		65%以上		
要精検率	7.1%以下	7.0%以下	6.2%以下	2.0%以下	2.0%以下	6.8%以下	6.8%以下	2.7%以下	4.2%以下	2.0%以下
現在の許容値	11.0%以下		7.0%以下	3.0%以下		11.0%以下		1.4%以下		
精検受診率	90%以上									
がん発見率*	0.13%以上	0.08%以上	0.16%以上	0.06%以上	0.03%以上	0.38%以上	0.29%以上	0.16%以上	0.18%以上	0.15%以上
現在の許容値	0.11%以上		0.13%以上	0.03%以上		0.23%以上		0.05%以上		
陽性反応適中度*	1.9%以上	1.1%以上	2.6%以上	3.0%以上	1.6%以上	5.5%以上	4.3%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.4%以上
現在の許容値	1.0%以上		0.19%以上	1.3%以上		2.5%以上		4.0%以上		
非初回受診者の2年連続受診者割合**						30%		40%		

CIN3以上:頸がん,AIS,CIN3

*子宮頸がんはCIN3以上に対する値

**国民生活基礎調査から算出したおおよその現状の値

子宮頸がん指標

▶5. 子宮頸がん検診市町別成績

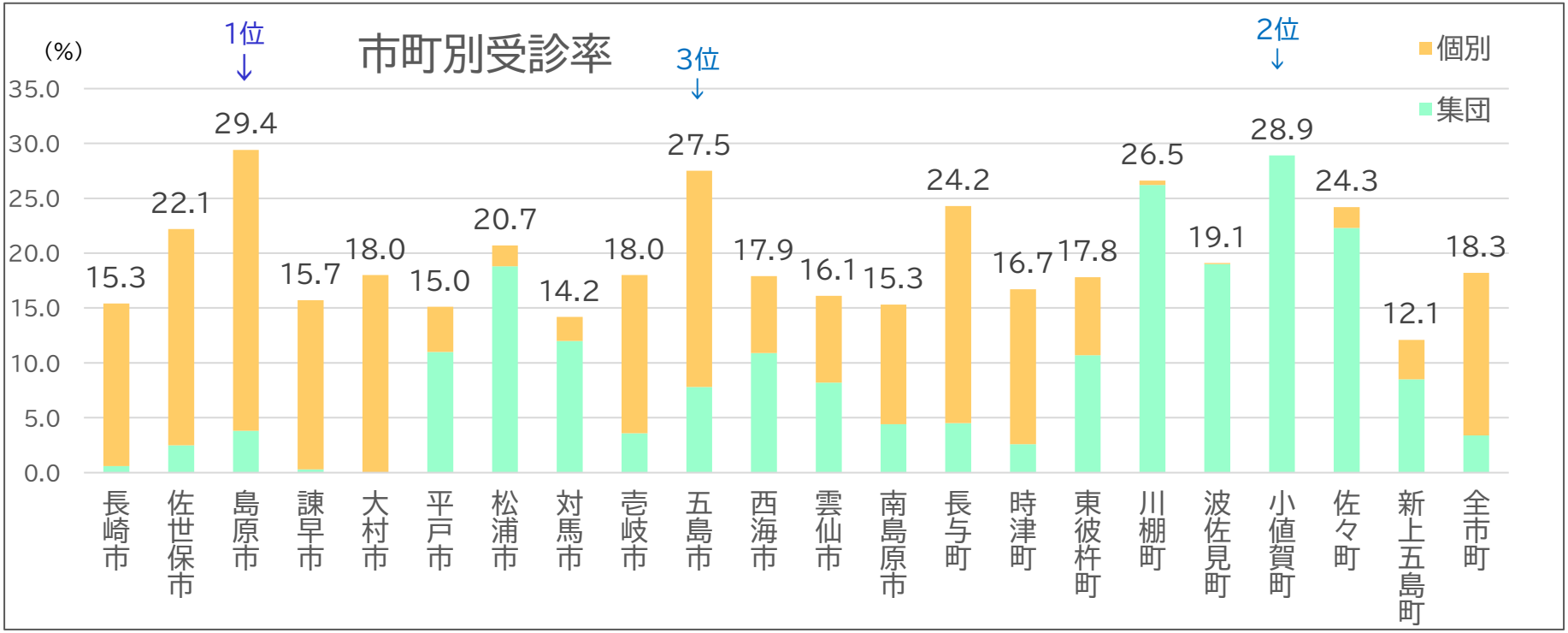
1）令和5年度市町別受診率

●受診率＝（R5年度受診者＋R4年度受診者-2年連続受診者）／対象者数

●目的：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合
●受診率は高いことが望ましい
●低い場合に考えられる原因
・受診勧奨が不十分

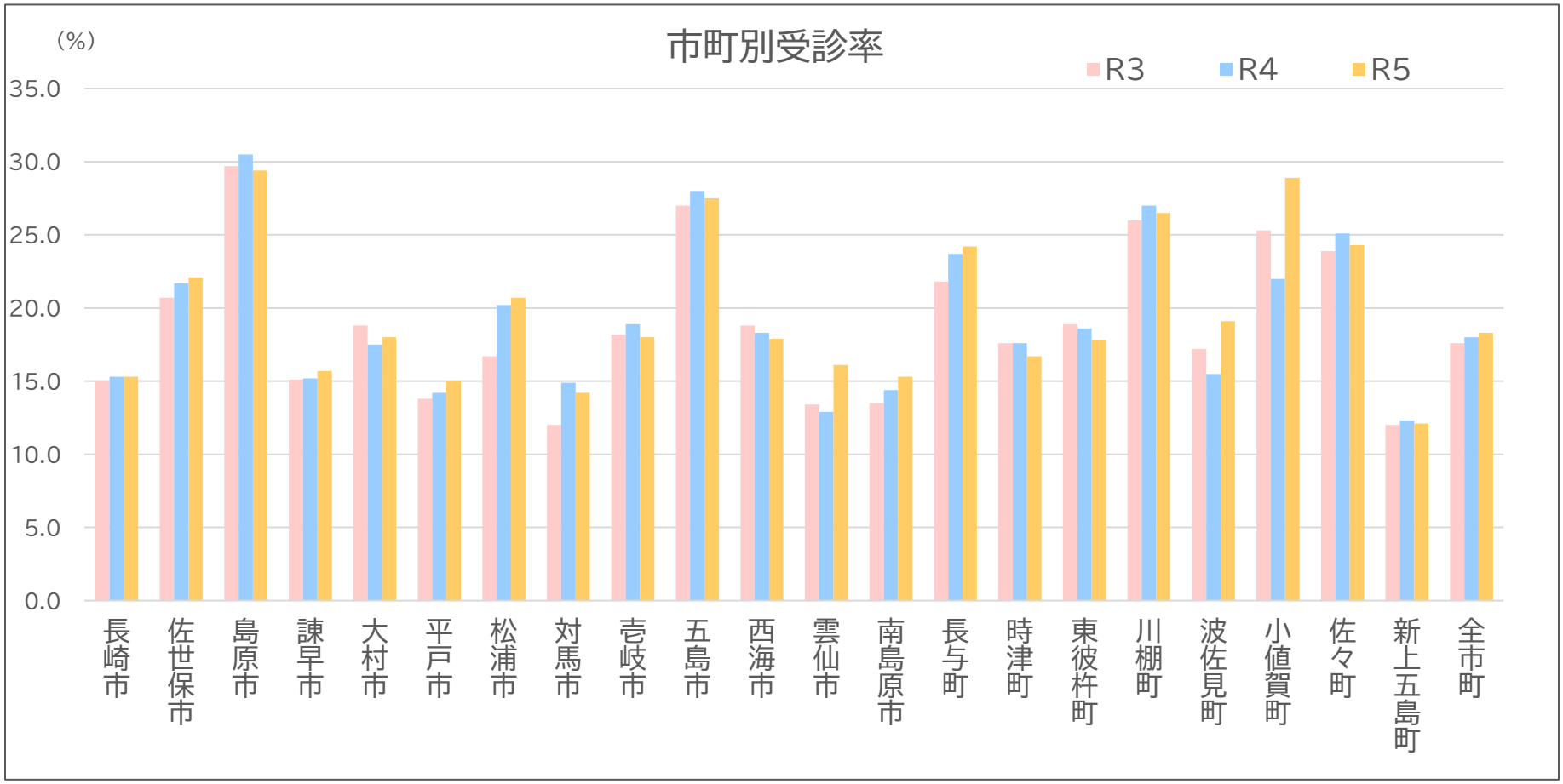
このデータは市町が地域のがん検診として実施した分のみ計上。
職域における受診者数は含まれていないことから、単純に比較することはできない。

受診率は、10%台～20%台が多く占め、県全体として18.3%であった。



2）年度別市町別受診率

●多くの市町で低下傾向にある
●3年連続上昇した市町：佐世保市・諫早市・平戸市・松浦市・南島原市・長与町



※新基準値(R6.5月改訂)より
追加された指標

3）令和5年度市町別非初回受診者の2年連続受診者割合

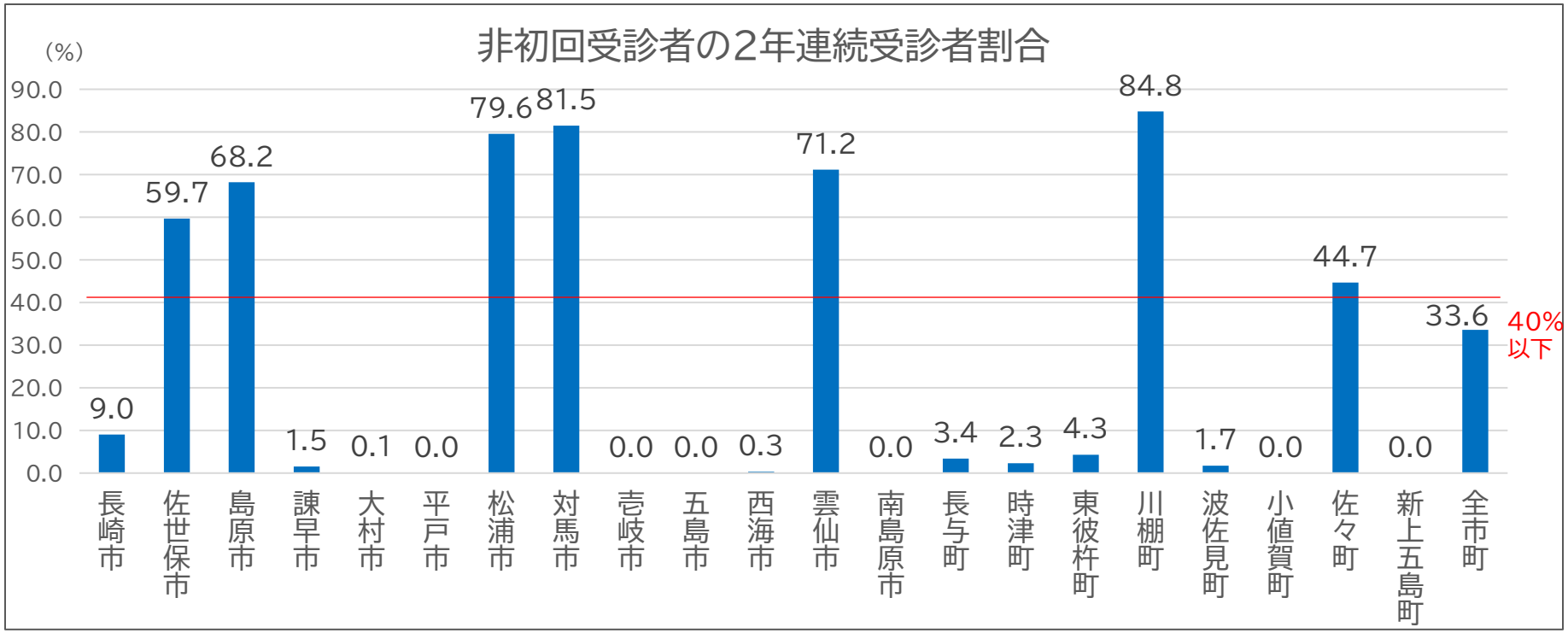
●非初回受診者における2年連続受診者割合
＝2年連続受診者数／非初回受診者数

●非初回受診者：過去3年間に受診歴のある者
●2年連続受診者：2年連続(R4とR5)して受診した者

●基準値：　40%以下〔20-69歳〕

受診間隔は、「隔年(前年度未受診者・偶数年齢など)」、「毎年受診可」とするなど、市町により差がみられる。

受診間隔を「毎年受診可」としている市町では、2年連続受診者が半数以上を占めている。



4）令和4年度要精検率

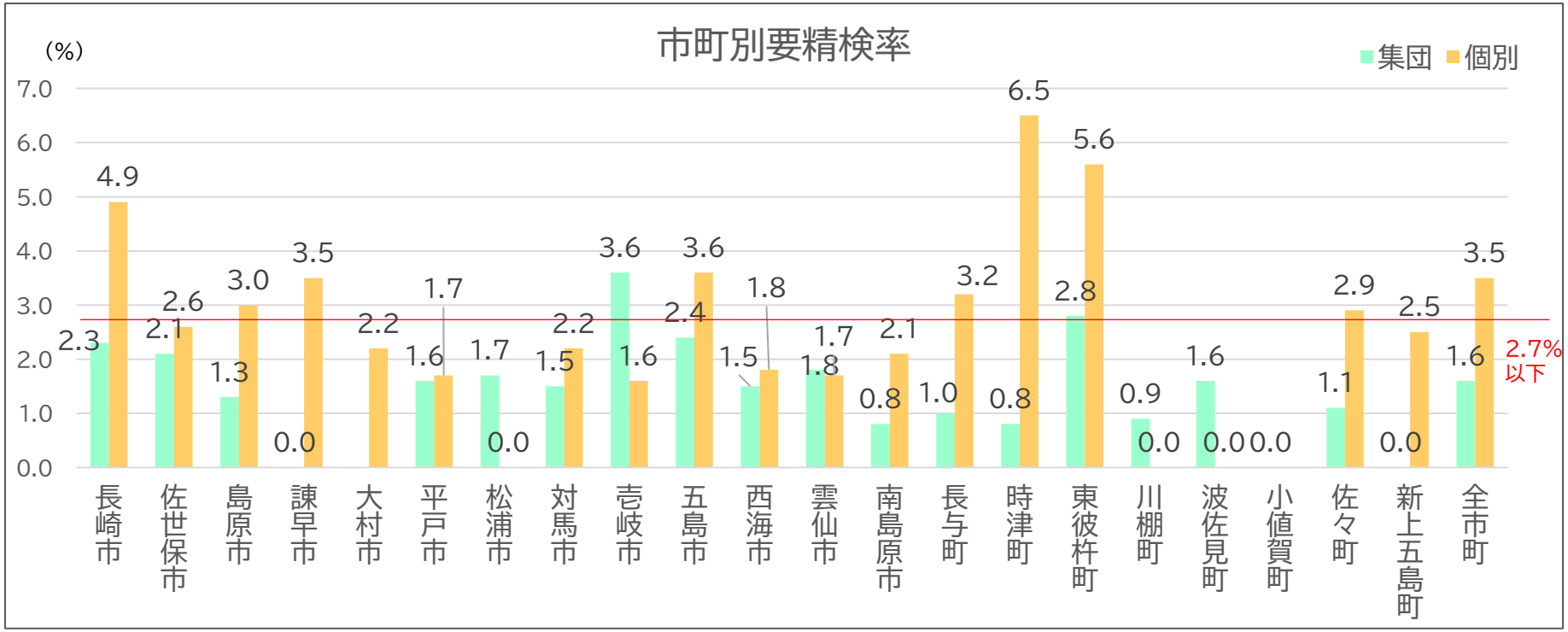
●要精検者数／検診受診者数

●目的：精密検査の対象者が適切にしぼられているか

●基準値：2.7%以下〔20-69歳〕

●値が適正でない場合に考えられる原因
- ・要精検者の計上が適切でない
- ・要精検の判定基準、検査の精度管理が適切でない
- ・有症状者が、がん検診を受診している

・要精検率は、ばらつきがあり、基準値を満たしていない市町がいくつかあった。 県全体で見ると、集団は基準値を満たしているが、個別は満たしていない。



5）令和4年度精検受診率

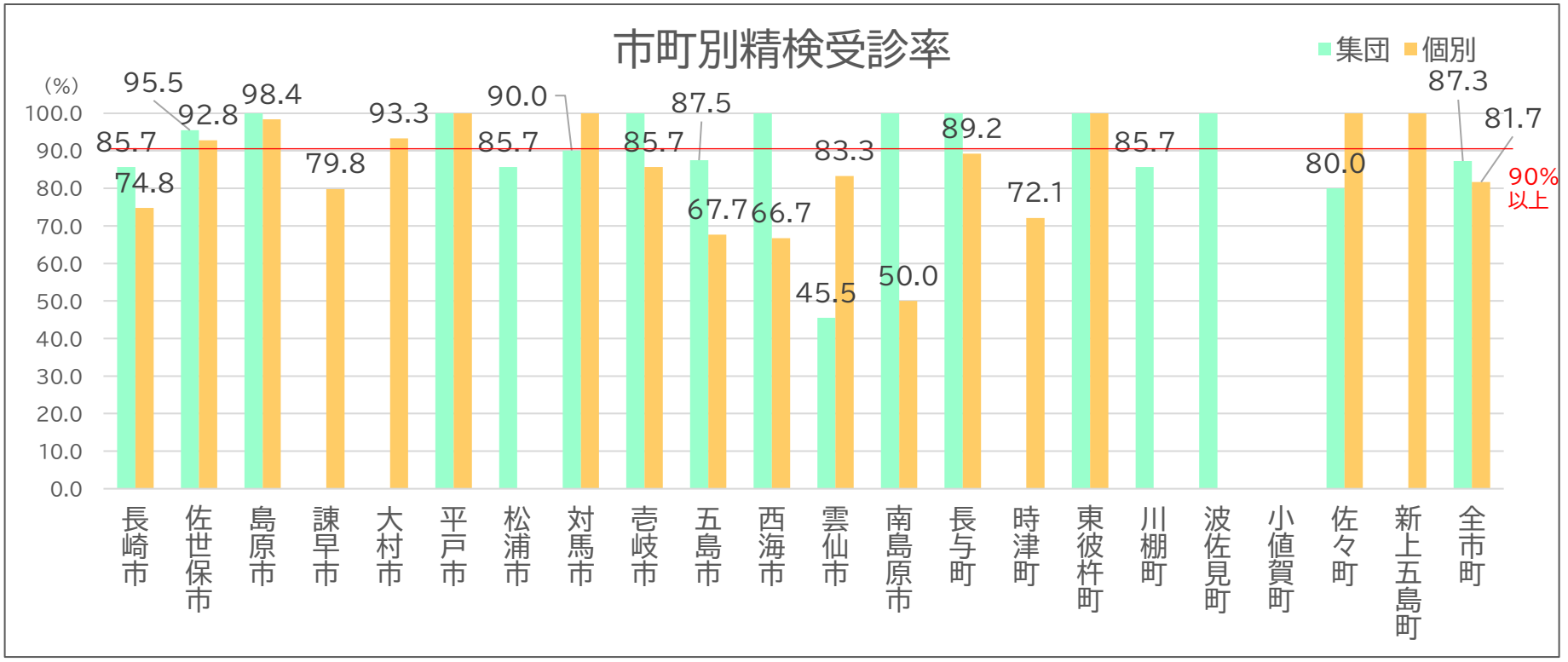
●精検受診者数／要精検者数

●目的：要精検者が精密検査を受診したか
●高いほど良い。（精検受診率が100%近くなければ、がん発見率・陽性反応適中度を正しく評価できない）

●基準値：90%以上〔20-69歳〕

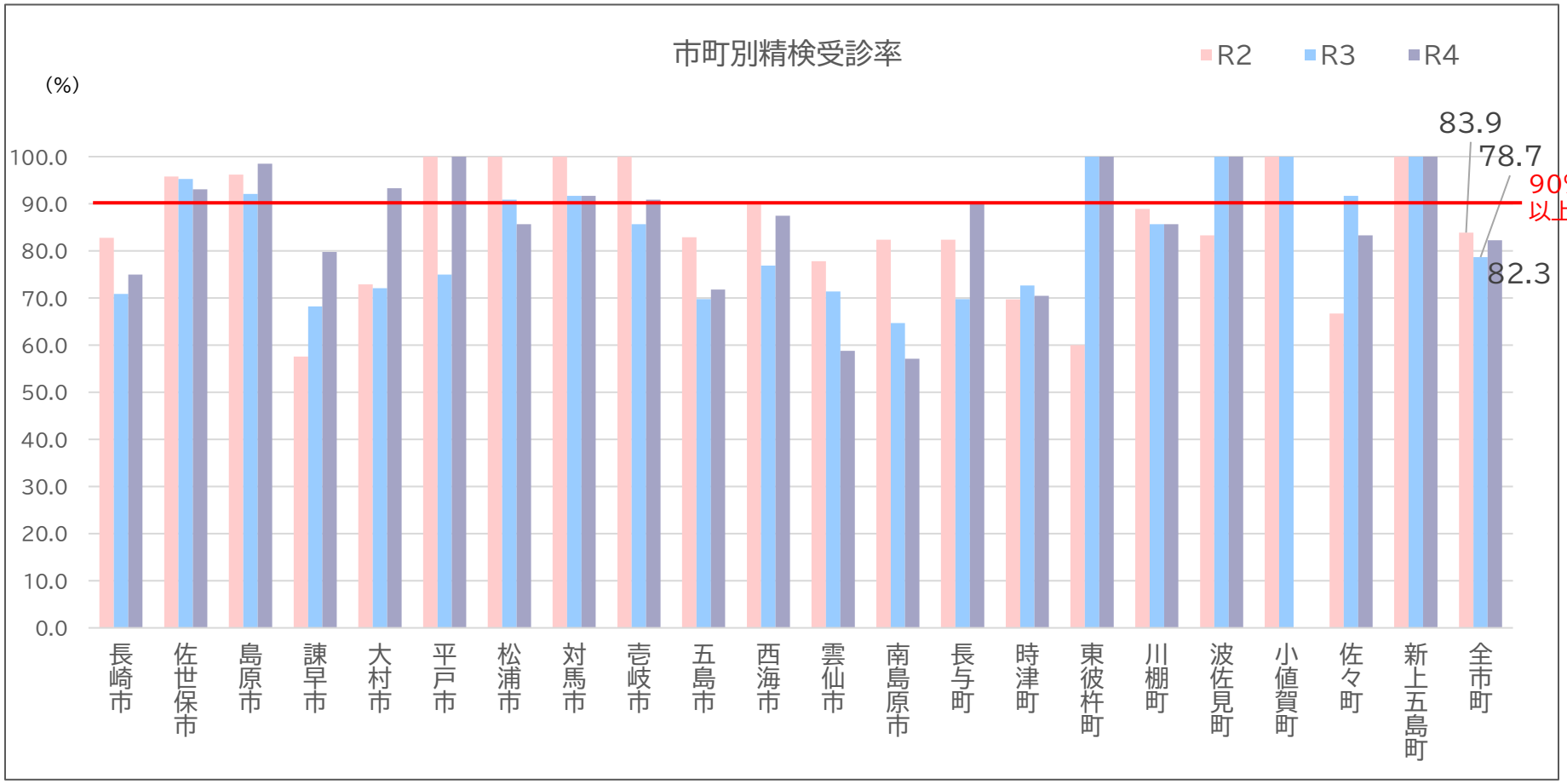
●低い場合に考えられる原因
・精密検査の受診勧奨が不十分
・精検受診の有無、精検結果を市町が確実に把握できる体制が不十分

人口規模が異なるので単純に比較できない。
県全体で見ると、集団・個別ともに基準値を満たしていない。



6）年度別精検受診率

●3年連続90%以上の市町：佐世保市・島原市・対馬市・新上五島町



※CIN3以上：頸がん+AIS+CIN3

7）令和4年度陽性反応適中度

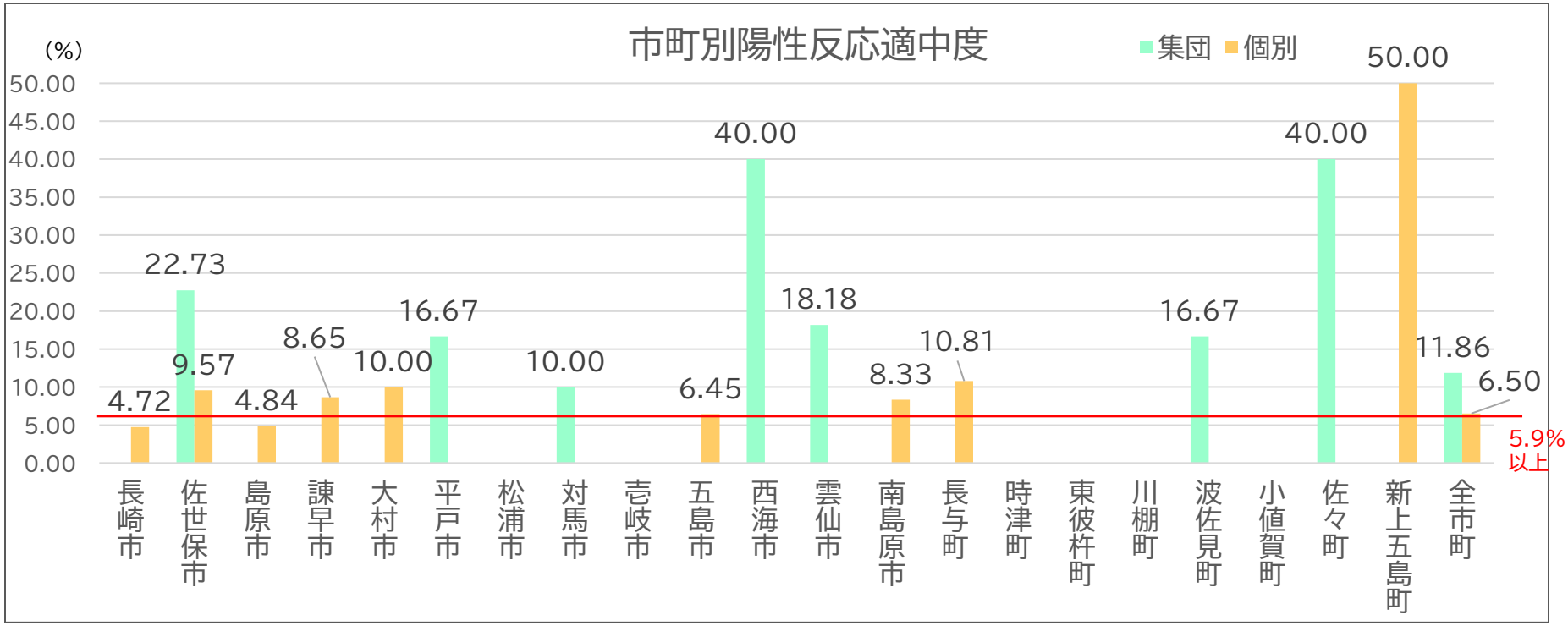
●CIN3以上であった者の数／要精検者数

●目的：検診で効率よくがんを発見されたかを測る

●基準値：5.9%以上〔20-69歳〕

人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難である。

ほとんどの市町が基準値を満たしていた。
県全体では集団も個別も基準値を満たしていた。



※CIN3以上：頸がん+AIS+CIN3

8）令和4年度がん発見率

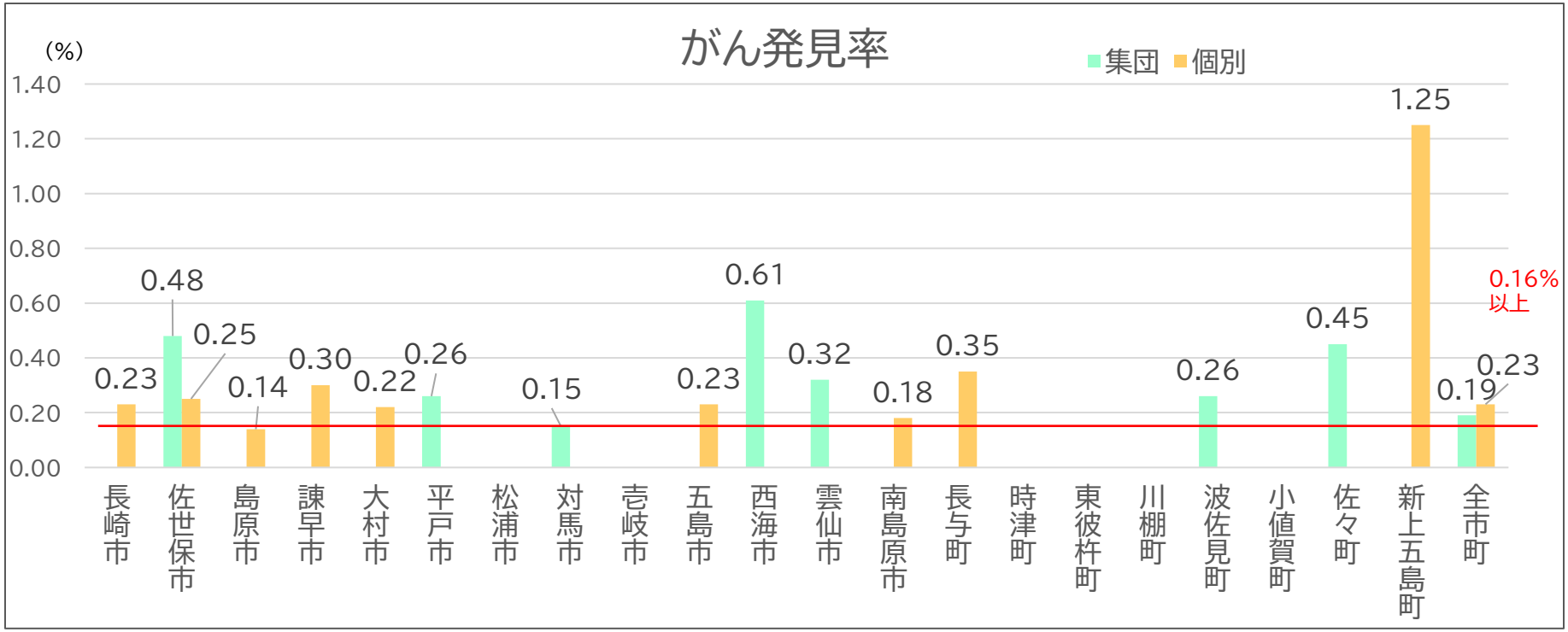
●CIN3以上であった者の数／検診受診者数

●目的：その検診システムにおいて、適切な頻度でがんを発見できたか

●基準値：　0.16%以上〔20-69歳〕

人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難である。

ほとんどの市町が基準値を満たしていた。
県全体では集団・個別ともに基準値を満たしていた。



9）令和4年度　偶発症

- 長崎県では偶発症は確認されていません。

【検診時もしくは検診後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数（再掲）	偶発症確認	死亡数（再掲）
集団	2	…	－	－
個別	4	…	－	－
合計	6	…	－	－

【精密検査時　もしくは精密検査後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数（再掲）	偶発症確認	死亡数（再掲）
集団	…	…	－	－
個別	2	…	－	－
合計	2	…	－	－

6.まとめ

受診率、精検受診率について

受診率は10%台～20%台が多く占め、県全体として18.3%であった。集団より個別での割合が多い。
精検受診率は、集団・個別ともに満たしていない。
精検受診率を向上させるためには、精密検査の受診勧奨を行うことに加えて、精検医療機関からの情報を、市町が適切に把握できるよう体制を整えることが必要である。

要精検率について

各市町、検診形態（集団、個別）によりばらつきがあるが、要精検率は、基準値を満たしていない市町がいくつかあった。県全体で見ると、集団は基準値を満たしているが、個別は満たしていない。

がん発見率、陽性反応適中度について

人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難であるが、県全体では、がん発見率・陽性反応適中度は、集団も個別も基準値を満たしていた。